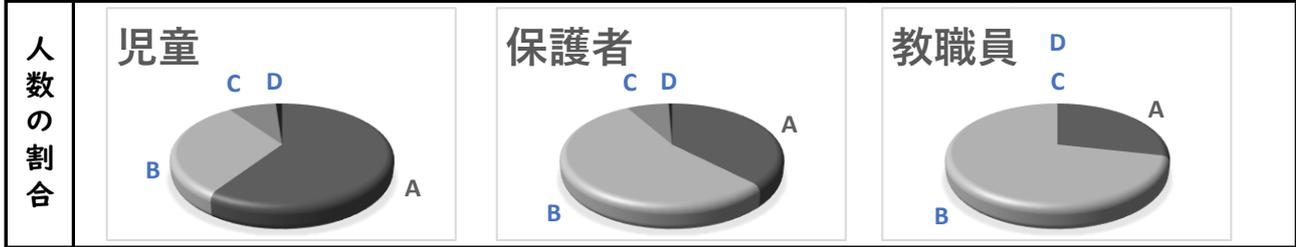


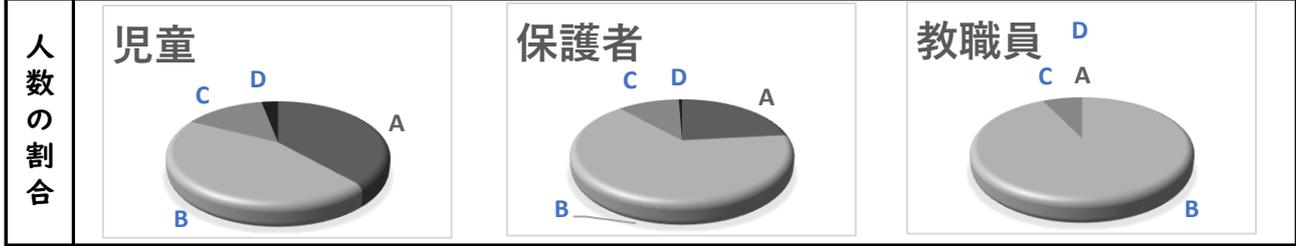
学校評価（児童・保護者・教職員）の結果と考察

1	【児童】わたしは、笑顔で楽しく学校生活を送ることができている。 【保護者】お子さんは、笑顔で楽しく学校生活を送っている。 【教職員】児童は、笑顔で楽しく学校生活を送ることができている。	評価	児童	保護者	教職員
		A(%)	59	38	29
		B(%)	31	54	71
		C(%)	9	8	0
A…とてもそう思う B…そう思う C…あまり思わない D…思わない		D(%)	1	1	0
評価指数(A…4点 B…3点 C…2点 D…1点で求めた平均値)			3.5	3.3	3.3
判定(◎…3.2以上 △…3.0未満)			◎	◎	◎



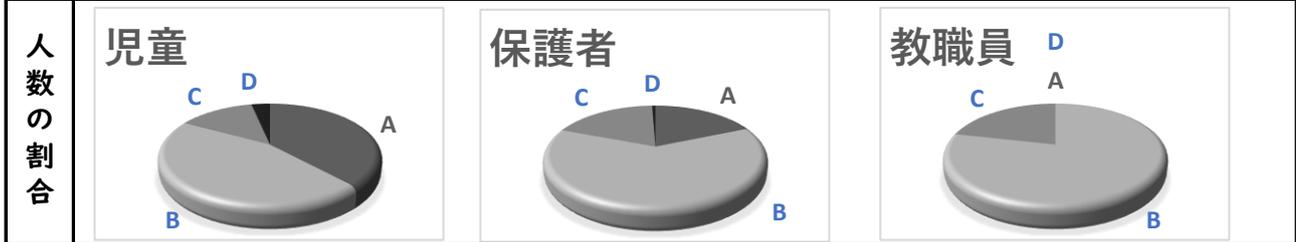
考察
三者ともに高い評価になった。子どもたちが学校が楽しいと思えるよう、児玉小の教育活動を推進していきたい。子どもたちが何を思っているか、多岐にわたると思われるが、一人一人の思いを大切にしたい指導を続けていきたい。

2	【児童】わたしは、授業に興味関心をもって、自分から学ぶことができている。 【保護者】お子さんは、興味関心をもって、自ら学ぶことができている。 【教職員】児童は、興味関心をもって、自ら学ぶことができている。	評価	児童	保護者	教職員
		A(%)	39	23	0
		B(%)	44	65	93
		C(%)	14	11	7
A…とてもそう思う B…そう思う C…あまり思わない D…思わない		D(%)	3	1	0
評価指数(A…4点 B…3点 C…2点 D…1点で求めた平均値)			3.2	3.1	2.9
判定(◎…3.2以上 △…3.0未満)			◎	○	△



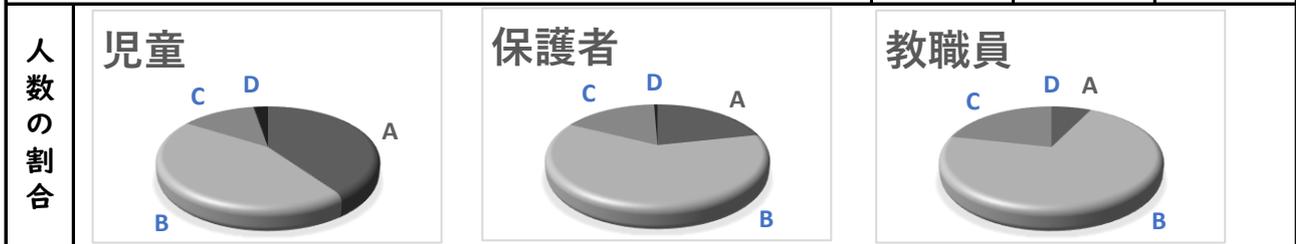
考察
子どもたちの評価は高いが、子どもたちが自ら「知りたい」「調べたい」と興味関心をもって授業を行っているかという疑問が残る。まだまだ授業に対して受け身の子どもが多い。また、教師主導の授業形態が多く、子どもたちが主体的になる授業形態がまだ少ないことも原因の一つとして挙げられる。今年度、子ども中心の学びを推進し始めたが、子どもたちの主体的な姿をさらに求めていきたい。

3	【児童】わたしは、授業中、試行錯誤しながら、自分なりの課題をもつことができています。	評価	児童	保護者	教職員
	【保護者】お子さんは、試行錯誤しながら、自分なりの課題をもつことができています。	A(%)	38	19	0
	【教職員】児童は、試行錯誤しながら、自分なりの課題をもつことができています。	B(%)	45	62	79
		C(%)	14	19	21
	A…とてもそう思う B…そう思う C…あまり思わない D…思わない	D(%)	3	1	0
評価指数(A…4点 B…3点 C…2点 D…1点で求めた平均値)			3.2	3.0	2.8
判定(◎…3.2以上 △…3.0未満)			◎	○	△

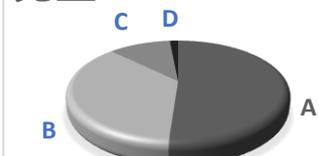
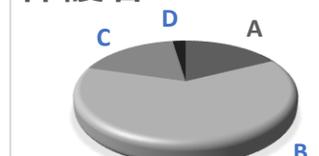
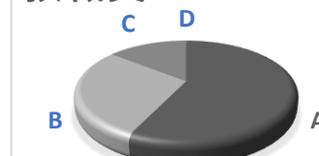


考察
アンケート2の考察から、子どもたちが興味関心をもって授業を行っているかという疑問が残るため、次の段階である自分なりの課題をもてない子どもが多いことは必然である。教科等で、学習内容や学習方法を振り返る活動を定期的に行うことで、次時の自分なりの課題がもちやすくなる。自律して学び続けるためにも、自分なりの課題(めあて)をもたせられるよう、工夫して指導していきたい。

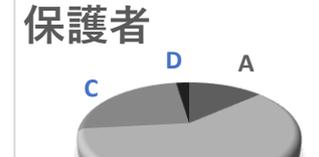
4	【児童】わたしは、授業で学んだことを生かし、新しいことへチャレンジしている。	評価	児童	保護者	教職員
	【保護者】お子さんは、学んだことを生かし、新しいことへチャレンジしている。	A(%)	40	22	7
	【教職員】児童は、学んだことを生かし、新しいことがチャレンジできている。	B(%)	44	61	71
		C(%)	13	17	21
	A…とてもそう思う B…そう思う C…あまり思わない D…思わない	D(%)	3	1	0
評価指数(A…4点 B…3点 C…2点 D…1点で求めた平均値)			3.2	3.0	2.9
判定(◎…3.2以上 △…3.0未満)			◎	○	△



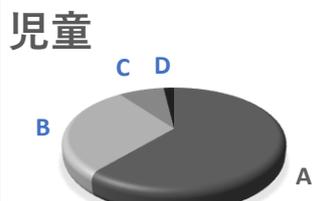
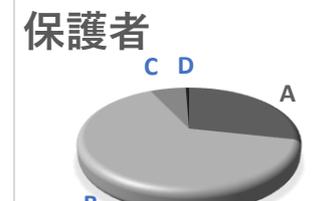
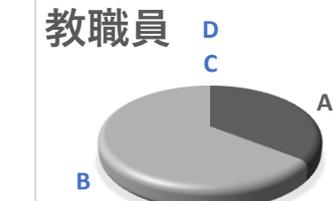
考察
子どもたちの評価は高いが、教職員の評価が低くなっている。子どもたちが、「チャレンジしている」という意味を分かっていないことや、目標が低いことが考えられる。努力点では「チャレンジする段階」を設けているが、まだ実行できていないので、計画していきたい。また、教科等の中でも、学んだことを生かして、チャレンジできる内容を考え、単元を通して指導していくことも必要である。

5	【児童】わたしは、友達や先生、地域の方々に、気持ちのよい挨拶や返事ができている。	評価	児童	保護者	教職員	
	【保護者】お子さんは、気持ちのよい挨拶や返事ができている。	A(%)	51	17	57	
	【教職員】児童が気持ちのよい挨拶や返事ができるよう、挨拶指導や挨拶活動を、効果的に行うことができている。	B(%)	36	62	29	
		C(%)	11	18	14	
	A…とてもそう思う B…そう思う C…あまり思わない D…思わない	D(%)	1	2	0	
評価指数(A…4点 B…3点 C…2点 D…1点で求めた平均値)			3.4	2.9	3.4	
判定(◎…3.2以上 △…3.0未満)			◎	△	◎	
人数の割合	児童	保護者				教職員
						

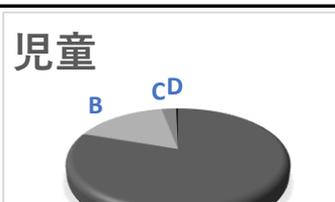
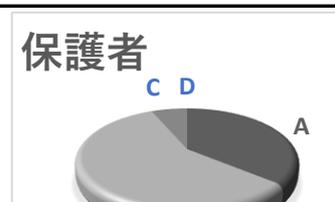
考察 子どもたちと教職員の評価は高く、保護者の評価が低い結果となった。子どもたちは素直な子が多く、ほとんどの子が挨拶をすると返ってくる。しかし、自発的な挨拶ができていないか、元気で気持ちのよい挨拶ができていないかという点、指導の余地はあると考える。また、保護者の評価が低いということは、PTA旗当番の方や見守り隊の方への挨拶が不十分であることが考えられるため、指導していきたい。

6	【児童】わたしは、学校生活で、何事にもプラスにとらえて、挑戦することができている。	評価	児童	保護者	教職員	
	【保護者】お子さんは、何事にもプラスに捉えて、挑戦することができている。	A(%)	46	13	0	
	【教職員】児童は、何事にもプラスに捉えて、挑戦することができている。	B(%)	35	60	86	
		C(%)	14	24	14	
	A…とてもそう思う B…そう思う C…あまり思わない D…思わない	D(%)	6	2	0	
評価指数(A…4点 B…3点 C…2点 D…1点で求めた平均値)			3.2	2.8	2.9	
判定(◎…3.2以上 △…3.0未満)			◎	△	△	
人数の割合	児童	保護者				教職員
						

考察 子どもたちの評価は高いが、保護者と教職員の評価が低い結果となった。アンケート4の考察でも示した通り、「挑戦する」という意味を分かっていないことや、目標が低いことが考えられる。また、失敗を恐れていることも考えられる。行事等で、子ども中心の活動から、挑戦できる内容を考え、取り組んでいくことが必要であると考えられる。

7	【児童】わたしは、自分や友達のよいところを見つけることができる。 【保護者】お子さんは、自分や友達のよいところを見つけることができる。 【教職員】児童は、自分や友達のよいところを見つけることができる。	評価	児童	保護者	教職員
		A(%)	61	28	36
		B(%)	29	65	64
		C(%)	8	6	0
		D(%)	2	1	0
A…とてもそう思う B…そう思う C…あまり思わない D…思わない					
評価指数 (A…4点 B…3点 C…2点 D…1点で求めた平均値)		3.5	3.2	3.4	
判定 (◎…3.2以上 △…3.0未満)		◎	◎	◎	
人数の割合	児童	保護者		教職員	
					

考察	概ね満足いく結果である。同学年の友達だけでなく、下学年の子に対してもやさしくする上学年の姿や思いやりのある行動が多く見られる。今後は、ペア活動や異学年交流の活動等を一層充実させ、子どもたちの心が育つよう、引き続き指導していきたい。
----	---

8	【児童】わたしは、運動会や見玉フェスティバル、作品展などに全力で取り組み、達成感を味わうことができている。 【保護者】お子さんは、行事に全力で取り組み、達成感を味わっている。 【教職員】学校行事(運動会・作品展等)では、年間の授業時数に影響なく、進めることができている。	評価	児童	保護者	教職員
		A(%)	80	36	14
		B(%)	17	58	50
		C(%)	3	6	29
		D(%)	0	0	7
A…とてもそう思う B…そう思う C…あまり思わない D…思わない					
評価指数 (A…4点 B…3点 C…2点 D…1点で求めた平均値)		3.8	3.3	2.7	
判定 (◎…3.2以上 △…3.0未満)		◎	◎	△	
人数の割合	児童	保護者		教職員	
					

考察	子どもたちと保護者は高い評価だが、教職員の評価から、授業時数の影響が大きかったことがわかった。保護者のための見栄え重視の行事から、子ども中心の活動を大切にしたい行事へと転換し、計画していくことが必要である。教育委員会からも「教育的意義を踏まえた学校行事の精選と運営方法の見直しを図る」よう求められている。ナゴヤ学びのコンパスが目指す、「子ども中心の学び」から、行事を見直す必要があると考える。
----	--

9	【保護者】学校の様子や出来事が伝わってくる(学校・学年だより、連絡帳、電話等)。 【教職員】「きずなネット」配信や連絡帳、電話連絡等により、家庭への情報提供を効果的に行うことができている。	評価	児童	保護者	教職員
		A(%)		21	71
		B(%)		66	29
		C(%)		12	0
		D(%)		1	0
A…とてもそう思う B…そう思う C…あまり思わない D…思わない					
評価指数(A…4点 B…3点 C…2点 D…1点で求めた平均値)				3.1	3.7
判定(◎…3.2以上 △…3.0未満)				○	◎
人数の割合	保護者		教職員		

考察 今年度から「きずなネット」配信を増やしたり、保護者へのきめ細やかな対応(連絡帳への記入や電話連絡、家庭訪問等)を行ったりすることで、高い評価が得られている。しかし、一部の保護者や地域の方から「きずなネット」配信について不満の声をいただいた。まだ慣れないところもあり、よさを理解していただけなかったところも一部あるため、改善できるよう努力していきたい。

10	【児童】先生たちは、信頼でき、何でも相談することができる。 【保護者】学校の教職員は信頼ができ、何でも相談ができる。 【教職員】保護者が相談しやすいように、普段から電話連絡や家庭訪問等で、保護者への連絡をきめ細かく行うことができている。	評価	児童	保護者	教職員
		A(%)	49	26	64
		B(%)	36	64	36
		C(%)	11	9	0
		D(%)	4	1	0
A…とてもそう思う B…そう思う C…あまり思わない D…思わない					
評価指数(A…4点 B…3点 C…2点 D…1点で求めた平均値)			3.3	3.2	3.6
判定(◎…3.2以上 △…3.0未満)			◎	◎	◎
人数の割合	児童		保護者		教職員

考察 概ね満足する結果となった。普段から子どもたちや保護者が相談しやすいように働きかけている成果であると考え。しかし、トラブルが大きくなってから先生に報告をしたり、先生になかなか言い出せなかったりしていた事例も多かった。大きなトラブルだと相談できるが、小さなトラブルは抱え込む傾向が見られる。ちょっとしたことでも相談しやすい雰囲気をつくるために、教育相談の機会を増やし、やり方も工夫していきたい。